



学校だより

# とき・あかし錦城

2020年(令和2年)  
12月2日(水)(第65号)  
明石市立錦城中学校

## 冬来りなば春遠からじ

…… 寒くなりますが、春よ来い ……

学校長 永田 浩史 (ながた ひろし)



12月に入りました。今朝のニュースでは北海道では大雪とのこと。例年よりも寒い冬になりそうです。

学校では生徒会長選挙(12/3 投開票)に向けての選挙運動が始まり、玄関前では2年生が候補者とともに大きな声で元気なあいさつと呼びかけを行っています。

例年であれば年末の慌ただしさの中にあっても、年末バーゲンセールやクリスマスに向けてのイベント、大晦日、年の始めの様々な行事に向けての準備でも人も街も華やぎ、何だかソワソワ、ウキウキする時期です。しかし、今年の冬は新型コロナウイルス感染症の拡大のために、大きく様変わりしてしまいました。

見出しの「冬来り(きたり)なば春遠からじ」という言葉ですが、寒い冬になると早く春が来ないかな、待ち遠しいなど誰しも思うものですね。調べてみるとこの言葉、イギリスの詩人シェリーという人が、「西風に寄せる歌」という詩の最後に書いた文が出典のようです。

### If Winter comes, can Spring be far behind ?

日本語に翻訳した人の文語的(漢文調)センスが光ります。「Winter」と「Spring」の頭が大文字になっているのは、「冬」と「春」を擬人化しているのでしょう。「寒くてつらい時期」と「暖かくていい時期」と考えるといいのだと思います。

気になるのは文末の「？」。疑問文になっています。疑問文に訳すと、「冬が来るなら、春ははるかに遠いことがありますか？」となります。これを反語的に訳してみると、「春は遠くないぞ・春は近いぞ」となるわけです。意識すれば、「つらい時期を耐えれば、必ずいい時期が来る」ということですね。

マスクの着用、手洗い・うがい、3密を避ける、不要不急の外出は控えるなどなど、今しばらくは我慢の時期が続きそうです。「春遠からじ」を信じて毎日を過ごしていきましょう。



▲生徒会長に3名が立候補。タスキや選挙応援用の横断幕、ポスターなど、クラスのみなが協力してとっても丁寧に仕上がっています。

### 12/3(木) 立会演説会・投票

※コロナ感染予防として、体育館での立会演説会を校内放送で行います。



# 来

ライ・くる、きたる  
●とげのある麦の穂のたれさがる形にかたどり、麦の意味を表す。借りて、くるの意味に用いる。

落ち葉はき子らのかけ声響く朝

## 12月の主な行事予定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
3	木	生徒会長選挙	21	月	三者懇談会 リサイクル活動
9	水	2年生校外学習(天文科学館)NB	22	火	三者懇談会 リサイクル活動
12	土	本感動大賞表彰式(市民広場)	23	水	リサイクル活動・大掃除 NB
15	火	登校指導	24	木	終業式
16	水	NB	25	金	冬季休業日~1/6
17	木	三者懇談会	29	火	学校閉庁日~1/3まで NB
18	金	三者懇談会	1/7	木	3学期 始業式



### ここにも……春待つ花壇

テーマ「Withコロナ 花で安らぎを」

▼中庭の花壇が新しいデザインになりました。用務員の河合さんと峰崎さんがデザインから設計、植え込みをしていただきました。

▼約300株のノースポール、ビオラによる虹とハートを組み合わせたシンプルなデザインは、コロナ禍の中で働く人、苦しんでいる人、すべての人に優しさと愛を届けてくれるようです。寒さの厳しい冬を乗り越えて、暖かくなる春には、きれいな虹とハートが浮かび上がります。楽しみです。



### とき・あかし65 ヒメオドリコソウ(春の準備)

▼11月27日(金)、F博士とT先生と3人で明石公園のパトロール。イスの木にはたくさんゴール(虫こぶ)。樹液の出ているアタカシの木にはスズメバチ、ニホンミツバチ。せっせと蜜を吸って冬に備えています。

▼F博士が足もとを見て、「ここは、春の準備をしていますよ」。教えていただいたのが、ヒメオドリコソウ。小さな葉が陽の光を浴びて輝いていました。寒さに負けず、昆虫も植物も春の準備が進んでいます。

